

他とよりよくかかわることを通して  
自分らしさを発揮できる子どもの育成Ⅱ



平成21年2月7日

鹿児島大学教育学部附属幼稚園

## は じ め に

鹿児島大学教育学部附属幼稚園  
園 長 今 林 俊 一

「生きる力」をはぐくむという理念を継続し、平成20年3月28日に告示された新しい学習指導要領では、21世紀を知識基盤社会と位置付け、高度情報化社会、少子高齢化社会、国際化社会を生き抜く能力や資質をもち、規範意識や思いやりの心を大切にするなどの人格の完成を目指すことで社会の構成員としてふさわしい人材を育成することが要請されています。特に、幼稚園の教育では、平成21年度から「体を動かすことや望ましい食習慣の形成」「友だちと話し合ったり、考えたり、きまりの必要性に気付かせたりすること」「幼稚園と小学校の連携」「預かり保育と子育ての支援」を充実させることが求められています。

そのため、本園におきましては、平成16年度からは生きる力としての確かな学び、すなわち、発達や学びの連続性を重視した保育研究・実践の充実に向けた研究を進めて参りました。その中で、幼稚園での子どもたちの学びを、子ども一人一人が遊びを通して自分なりに課題を発見し、試行錯誤しながら、生活に生かそうとする姿として捉え、最適な保育内容の設定について提案いたしました。

さらに、昨年度から、『他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成』という研究テーマを掲げ、「自分らしさの発揮」ができる状況はどのようなときで、どのような場面なのか、園の中での遊びや園行事などから探求し、また、「自分らしさの発揮」が深まり、広がるためには保育者としてどのようなかかわりをしていけばよいのかを、事例をもとに追究してきました。本年度は、「もの」とのかかわりの中で自分らしさを発揮できる子どもの姿から、保育研究・実践を行ってきました。

今回の公開研究会では、「もの」を保育者が教育的な価値を含ませながら、子どもたちが興味関心をもって活動に取り組むことができるように、意図的・計画的に構成された遊具や用具・人工的な素材と捉え、子どもたちが「もの」とのかかわりの中で自ら積極的に遊ぶ姿をより多く生み出す保育づくりについて提案いたします。

まだまだ明らかにしなければならないことも多く、充分とは言えない実践研究ではありますが、先生方の忌憚のない御教示、御批正を賜り、今後の研究の糧にしていきたいと考えます。

また、本年度の公開研究会では、鹿屋体育大学教授の森 司朗先生に「幼児の心とからだの育ち」の演題の御講演を賜りますことになっております。社会生活を営む上では、早急な解決が求められる切実な課題の多い環境の中で、子どもをまなざす視点の在り方が問われる昨今において、大変意義深いことであり、心から感謝申し上げます。

最後になりましたが、御指導、御助言を賜りました鹿児島県教育委員会、鹿児島県総合教育センター、鹿児島国際大学、鹿児島大学教育学部の諸先生方、また分科会で司会を務めていただいた先生方に深く御礼を申し上げます。本日の公開研究会で得られましたことを生かし、保育研究・実践をさらに深めてまいり所存ですので、今後とも一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。

平成21年2月7日

## 他とよりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる子どもの育成Ⅱ

はじめに

### I 研究の歩み

- 1 研究テーマの設定理由・・・1  
    (1) 時代の要請から  
    (2) 本園の実態から
- 2 研究テーマについて・・・2  
    (1) 「他」とは  
    (2) 「よりよくかかわることを通して自分らしさを発揮できる」とは
- 3 これまでの研究の成果と課題・・・8  
    (1) 保育者としての援助の在り方から  
    (2) 環境構成の工夫・改善から

### II 研究の方向・・・9

- 1 研究計画
- 2 研究の方法

### III 研究の内容

- 1 「もの」とは・・・11
  - 2 子どもが「もの」とかかわる姿とは  
    ① 新しい「もの」と出会い、初めてかかわる姿・・・12  
    ② 「もの」を遊びに取り入れながら、その特性に気付いていく姿・・・13  
    ③ これまでの経験をもとに、「もの」の特性を生かして工夫して遊ぶ姿・・・14
  - 3 研究の実際  
    (1) 実態調査から・・・15  
    (2) 研究保育・保育研究から・・・16  
    (3) 事例研究から・・・20  
        (ア) 子どもが「もの」とかかわる姿から  
            ① 新しい「もの」と出会い、初めてかかわる姿・・・21  
            ② 「もの」を遊びに取り入れながら、その特性に気付いていく姿・・・27  
            ③ これまでの経験をもとに、「もの」の特性を生かして工夫して遊ぶ姿・・・36  
        (イ) 一人の子どもについての継続的記録・・・42  
            ① 「他」との出会いから、さまざまな感動体験を味わうX児（年少）・・・43  
            ② いろいろな友だちとかかわる中で自分の思いを伝えられるようになったY児（年中）・・・47  
            ③ 自分の好きなことを見付け、友だちとのかかわりを楽しむZ児（年長）・・・51  
    (4) 「もの」とかかわる姿に合わせた子どもの遊びの変化・・・55  
        (ア) 室内での遊び  
            ① 空き箱製作・・・56  
            ② ごっこ遊び・・・57  
            ③ 大型積み木・・・58  
        (イ) 園庭での遊び  
            ① 砂場・・・59  
            ② ぶらんこ・・・60  
            ③ 鉄棒・・・61
  - 4 検証結果・・・62
- ### IV 研究の成果と課題・・・69
- ※ 参考資料（実態調査、「もの」の分析表）・・・71

おわりに